

チャイルドライン全国キャンペーン
結果概要

●フリーダイヤル

	発信数	着信数	着信率	総実施時間
11月	36,692件	14,530件	39.6%	3,360時間
前月比	+324件	+1,044件	+2.5ポイント	+450時間

●オンラインチャット

	訪問件数	書込件数	対応件数	対応率	総対応時間
11月	13,420件	3,443件	1,341件	38.9%	748時間
前月比	+2,190件	+1,141件	+701件	+11.1ポイント	+396時間

●男女別（会話成立）

性別	男	女	不明	合計
電話	2,103	1,702	59	3,864件
チャット	76	548	32	656件
合計	2,179	2,250	91	4,520件

●年齢別（会話成立）

年齢	未就学	小学生 低学年	小学生 高学年	中学生	中卒～ 18歳	不明	合計
電話	4	286	471	731	2,089	283	3,864件
チャット	0	21	192	230	183	30	656件
合計	4	307	663	961	2,272	313	4,520件

thank
youご支援・ご協力
ありがとうございます●2021年7月～12月のご寄付総額
9,060,398円

子ども専用フリーダイヤルをはじめとしたチャイルドライン支援センターの活動は、多くの方のご支援で成り立っています。フリーダイヤル・オンラインチャット運営費用はもちろん、届いた子どもの声をまとめ、社会に届けるために、年間6,000万円の活動費用が必要です。子どもたちの生きやすい社会を目指し活動するチャイルドラインへのご支援をこれからもよりしくお願いいたします。

ゆうちょ銀行 振替口座 00120-5-425245
(019支店 当座0425245)
口座名 NPO法人チャイルドライン支援センター

※当団体は東京都の認定を受けています。ご寄付いただくと所得税や法人税の控除を受けることができます。
(内閣府HP <https://www.npo-homepage.go.jp>)

フリーダイヤル
&オンラインチャット 実績

●フリーダイヤル

2021年7月～12月	当期	前年同期比
発信数	232,931件	-20,883件
着信数	81,742件	-1,826件
着信率	35.6%	+2.6ポイント
平均通話時間	5分41秒	-17秒
総通話時間	7,726.1時間	-590.5時間

●オンラインチャット

2021年7月～12月	当期	前年同期比
訪問人数	66,764件	+23,319件
書込件数	14,458件	+5,693件
対応件数	4,457件	+743件
対応率	31.1%	-11.6ポイント
平均対応時間	39分27秒	+5分29秒
対応時間	2,877.6時間	+781.5時間

※フリーダイヤル＝NTTコミュニケーションズ トラヒック調査ツールより
オンラインチャット＝チャットシステムAI.BISのレポート解析結果
およびチャイルドラインデータベースより

読者の皆様へ
寄付のお願い

ニュースレターをご覧いただきありがとうございます。私たちチャイルドラインの活動にご賛同いただき感謝しております。さて、私たちは認定NPO法人として活動しておりますが、年間に100人の方から3,000円以上のご寄付をいただくことが認定の基準に設けられております。コロナ感染症の影響で実際に会って活動のご紹介ができず、ご寄付の人数も減少しています。皆様のご厚情をぜひ「チャイルドライン支援センター」までお届けください。よろしくお願いします！！

編集後記

◆新型コロナウイルス感染拡大のパンデミックにより、不安定な治安および社会情勢に陥っています。歴史的にも暴力的な環境の下では、組織的な性暴力が日常化し、子ども、若者、女性などの個人の尊厳は奪われています。子どもたちの現実からスタートしたニュースレターをお届けしたいと思います。（金子）

特定非営利活動法人（認定NPO）

チャイルドライン
支援センター

News Letter

vol.
144

18歳までの子どもがかけるとんわ



チャイルドライン®

巻頭言

「子どもが子ども時代を子どもとして生きていく社会」、当たり前のようにそうでないのが、今子どもたちが生きている社会ではないでしょうか。

チャイルドラインは、国連子どもの権利条約の理念を持って活動を続けています。すべての子どもの生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利を基本に、子どもたちが子ども時代を健やかに心豊かに育ってほしいと願っています。

子どもからの「声」は真っすぐです。おとなたちはその「声」をどう受け止めるのか、おとなや社会の在り方が問われています。

近年、児童虐待が年々増加傾向にあることが毎年の厚生労働省による調査で報告されています。子どもへの暴言、暴力、育児放棄などを聞くと、子どもを守り育てる養育者たちの、子育ての不安や戸惑いなどの現状が感じられます。

児童虐待は、「児童虐待防止法」で規定されている虐待行為とさらに子どもへの権利侵害という視点から捉えるマルトリートメント（不適切な養育）という考え方があります。

チャイルドラインへ届く「声」は、直接電話やチャット等にアクセスできる、およそ6歳～18歳までの子どもからということになりますが、その子どもたちの「声」から、親に殴られた、食事が無い、怒鳴られた、文具や洋服を買ってもらえないなど、虐待を疑う状況が話の中から伝わってきます。

また、ニュースやマスコミでは報道されない、見えにくい虐待もあります。教育熱心で片付けられてしまいがちな「教育虐待」、家事や介護を担わされている「ヤングケア

チャイルドラインから見える

児童虐待

Child Abuse

虐待

ラー」の問題、貧困からくる養育問題、学校現場での体罰・暴力など、これらは表面には見えにくく、まわりのおとなからも虐待とは認識されにくいものです。さらに子ども自身も権利侵害をされていることを意識していないために抱え込んでいることが多々あります。

子ども自身からは、直接のSOSはなかなか出ないものです。恐怖、辛い、悲しい、不安、怒り、無力感などを心に閉じ込めているかもしれません。その「声」は、私たちおとなが、耳を傾け心に寄り添わなければ聞こえません。子どものまわりのおとなは、日常的に子どもに信頼され気軽に会話が交わされる関係づくりがとても大事だということです。

そして、虐待をしてしまうおとなの問題も考えなければ、子どもへの対応だけでは虐待の問題は解決するものではありません。今の社会が子どもたちにとって、また子育てをしていくうえで、本当に人を大切にしている社会となっているか、問い直す必要もあるでしょう。

チャイルドラインは、子どもたちに豊かな子ども時代を保障したいと考えています。「人は人との関わりの中で人間らしく生きられる」と言います。「人のつながりが大切にされる」そんな社会づくりがとても大事だと感じています。

チャイルドライン支援センター
理事 後藤幾子

発行日：2022年2月15日
発行：特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター（認定NPO）
〒162-0808 東京都新宿区天神町14 神楽坂藤井ビル5階 TEL：03-5946-8500 FAX：03-5946-8501
URL：<https://www.childline.or.jp/> E-mail：info@childline.or.jp



MESSAGE

こども支援の輪



立教大学名誉教授
浅井 春夫

コロナ禍と子どもの虐待

子どもの虐待と貧困の統計

厚生労働省の2020年度児童虐待相談対応件数（速報値）を昨年8月に公表。虐待件数は20万5,029件で、前年度より1万1,249件（5.8%増）で、過去最多を更新。統計を継続的に取り始めた1990年度から増え続けている。虐待の内容別でもっとも多かったのは、「心理的虐待」で12万1,325件（59.2%）を占めている。「身体的虐待」が5万0,033件（24.4%）、「ネグレクト」が3万1,420件（15.3%）、「性的虐待」が2,251件（1.1%）となっている。

また政府は2021年12月24日、子どもの貧困に関する初の実態調査結果を公表。現在の生活について、全体では「苦しい」「大変苦しい」を合わせて25.3%だったのに対し、ひとり親世帯では51.8%と2倍となっている。食料と衣服を「買えなかった経験があった」と回答したひとり親世帯はいずれも30.3%だった。教育権保障の格差も明白であった。

10代のメンタルヘルスを保つ6つのヒント

コロナ禍の自粛生活と学校生活のコミュニケーションの制限などのコロナ対策のとりくみは、保護者と教員のストレスを高め、家族関係の危機を増大させたことはまちがいない。とくに子ども・若者のメンタルヘルスにも大きな影響を及ぼした。たとえば2020年8月では女子中学生の自死は前年同月と比較して4倍、女子高生では7倍であった。家庭においては保護者だけではなく、子ども自身もストレスに晒されているのである。

「新型コロナウイルスの影響下でメンタルヘルス（心の健康）をどう保つ？ 10代の若者のみなさんへ、ユニセフからの6つのヒント」（2020年3月）^{*1}が発信されている。内容は、「1. 不安になるのは当然、今必要な判断をしよう」「2. 気分転換をしよう」「3. オンラインで友達とつながろう」「4. 自分自身に集中してみよう」「5. 気持ちに正直でいよう」「6. 自分にも他人にもやさしくしよう」の6つである。

6に関わって、イギリスの慈善団体「チャリティーズ・エイド・ファンデーション（CAF）」が2009年から毎年実施している調査の結果を紹介しておきたい。質問は、「過去1カ月に、（1）見知らぬ人を助けたか、（2）慈善活動に寄付をしたか、（3）ボランティア活動をしたか」である。2021年6月発表の調査結果では、日本は114カ国中、（1）「人助け」が114位（最下位）、（2）「寄付」が107位、（3）「ボランティア」は91位。これらを総合した結果でも、114位で最下位となっている。あらためてコロナ禍だからこそ、他者に優しい社会であるためにも「こども支援の輪」をつなげていきたいものである。

* 1 公益財団法人日本ユニセフ協会
<https://www.unicef.or.jp/news/2020/0111.html>

実施報告

全国 チャイルドライン キャンペーン

期間 2021年11月1日～30日
（児童虐待防止推進月間）

今こそ
子どもたちに
チャイルドラインを

電話 期間中 毎日、16時～21時 開設
（一部地域では、時間延長で実施）

オンラインチャット 16時～21時開設
11月1日～14日：毎日
11月15日～30日：木曜・金曜・第3土曜

発信総数 40,135 件

受信総数 15,871 件

※データ集計日 2021年12月26日^{*2}

2021年11月、児童虐待防止推進月間に合わせ、全国キャンペーンを実施しました。「チャイルドラインがあってよかった！」「チャイルドラインには安心して話ができる」と子どもたちに思ってもらえるように、全国68団体が力を合わせ、広報活動・受信体制の強化に取り組みました。

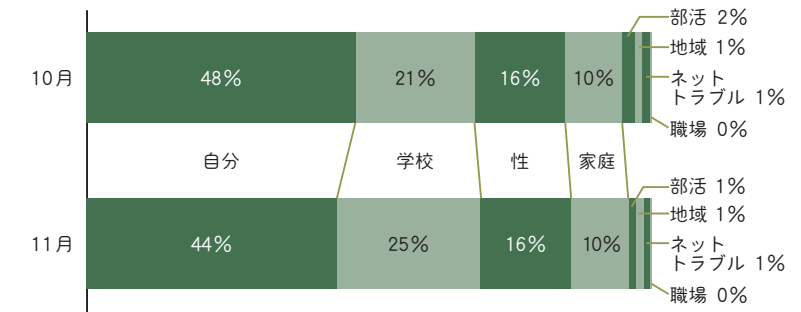


図1. 主訴別割合の前月比
（電話・オンラインチャット）

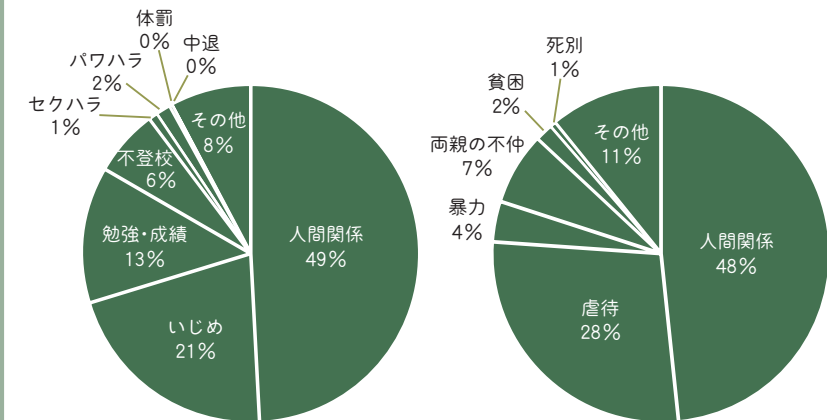


図2. 主訴「学校」の内訳

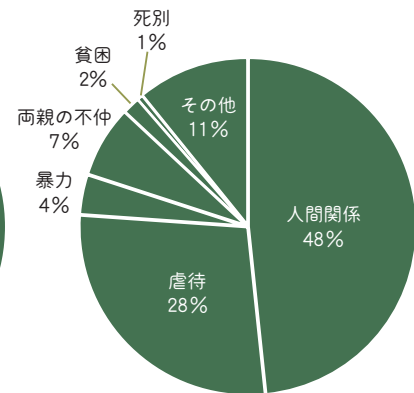


図3. 主訴「家庭」の内訳

電話・オンラインチャットともに、総実施（対応）時間が増え、着信（対応）率もあがりました。特に、オンラインチャットは、キャンペーンを機に実施団体が18団体から27団体に増えたこともあり、大きく上昇しています。

オンラインチャットは、2022年1月から実施日を増設できることになりました。今後さらに受信体制の強化を進め、同時に「聴く」ことの研修も重ねていくことで、「あってよかった！」「安心して話ができる」チャイルドラインであり続けたいと思います。

子どもの話の内容（主訴）は、10月に比べて「自分」が減り「学校」が増えています。11月は学校行事が多いため、学校にまつわる話題が多くなるものと思われます。

主訴『家庭』でも約半数は「人間関係」についてでした。「虐待」についても28%ありました。多くの子どもたちが「人と関わる事の難しさ」を感じている様子がどちらの主訴からもうかがえます。

「家庭内の人間関係」について、子どもの声からは「親とあわない・不仲」という関係性が見えてきます。子どもにとって親から理解してもらえない、と感じることは辛いものです。

家や学校、地域に居場所を見つけられず、SNSで知った「トー横」や「グリ下」^{*3}のようなリスクの高い場所に出向かないと居場所を見つけられないと感じる子どもが増えています。自分の居場所を欲している子どもたちが多くいることを頭の片隅に置いて、子どもの声に寄り添っていく必要を強く感じています。

* 2 データの詳細は巻末頁をご覧ください。

* 3 東京 新宿区歌舞伎町の中心部にある大型商業ビルの周辺、通称「トー横」(TOHO シネマズ新宿付近)と呼ばれる場所に3年ほど前から中学生や高校生などが集まっていたりするようになり、こうした若者は「トー横キッズ」と呼ばれている。同様に大阪ではミナミ・道頓堀の観光名所であるグリコの看板のたもと「グリ下」で互いに見知らぬ少年少女が集まる現象が起きている。